

平成29年度入学式式辞

H29. 4. 11

「心も浮き立つものは春の気色にこそあめれ、鳥の声なども殊の外に春めきて、長閑なる日影に、垣根の草、萌え出ずる頃より、やや春深く、霞み渡りて、花も漸う気色立つ程こそ有れ」
これは吉田兼好の徒然草第19段にある春の描写です。吉田兼好は、秋が四季のうちで一番趣があるけれど、心が浮き立つのは何と云っても春が一番だと言っています。
玉島の山々の桜や桃の花が咲き誇っている様子を見ると、生命の息吹を感じ、吉田兼好ならずとも心がウキウキしてきます。

今日は残念ながら春の雨ですが、こうした、まさに春爛漫の佳き日に、同窓会会長の西井弘人様、PTA会長の本谷美文様のご臨席をいただき、岡山県立玉島商業高等学校平成29年度入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

先ほど入学を許可いたしました200名の新入生の皆さん、そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。今年の入学試験もたいへん厳しいものになりましたが、人生初とも言える試練を見事突破されましたこと、心よりお喜び申し上げます。

さて、本校は昨年度、創立90周年を迎えることができました。大正15年に玉島町立玉島商業学校として開校以来、地域の皆様に支えられながら確固たる伝統を築いて参りました。その間、昭和24年から昭和33年までは、現在の県立玉島高等学校と一つの学校であった歴史もありますし、昭和45年までは今の倉敷市立玉島高等学校になる定時制課程を併設していた時期もありました。そうした紆余曲折の歴史を経て、今日の玉島商業高等学校があります。

本日、入学された皆さんが、玉島商業高等学校の90年の伝統を引継ぎ、そして新たな歴史を築いてくれることを心から期待しております。

それでは、入学式に当たり、本校の目指しているところをお話ししたいと思います。

本年度の学校経営計画では、本校の使命は、『「誠実・勤勉・礼儀」の校訓と「質実剛健」の校是の下、ビジネス教育をとおして社会に貢献出来る有為な人材を育成する。』こととしております。

もう少し具体的に申しますと、まず第1番目に目指すのは「健康な心身に豊かな人間性と高い倫理観を備え、自ら思考・判断した上で、自らの意思でTPOをわきまえて周囲に配慮した発言と行動ができる人材」の育成であります。

第2に「グローバルな視野を持った上で、玉島を中心とする備中地域の社会や産業を支えることのできる人材」の育成であります。

指示されるのを待って、指示されたことだけしかできないようでは、そのうちAIすなわち人工知能に仕事を奪われてしまいます。

課題に気付く感性、そしてそれを解決する為の手段・手法を想像力豊かに考え出して提案し、それを実行できる人材を時代が求めています。

ある会社を経営される方からお聞きしたお話しを紹介します。この社長さんは、「社員には維持社員と推進社員が存在する」と言われます。維持社員とは、指示されるのを待ち、指示されたことだけを過不足なくきちんこなすロボットのような存在のことを指しています。こういう存在は、皆

さんが社会に出る頃には、人工知能を持つロボットに取って代わられることでしょう。

そして推進社員とは、会社をより発展させるべく、時代の変化を敏感に察知し、先を読んで工夫し続け、新たな提案や挑戦をしようとする社員を指しています。

玉島商業高等学校は、その社長さんの言われる「推進社員」すなわち、指示待ち人間ではなく、自ら考え、自ら工夫し提案できる人材、自分の意見をしっかりと持って行動できる人材の育成を目指していきます。

さらに育てたい生徒像としては、次のような9つのことを実行できる生徒をイメージしております。

- ①嘘をつかない ②怠けない ③やりっ放しにしない ④わがままをしない ⑤人に迷惑をかけない
- ⑥爽やかにあいさつする ⑦時間を守る ⑧約束を守る ⑨諦めずに努力する

これらは、小さな子どもでも理解できることですが、なかなか実行するのは難しいことです。偉そうに言っている私自身も破ってしまいそうになることがしばしばです。

しかし、これらが実行できれば周囲から絶大なる信頼を得ることができるでしょう。

話は変わります。私自身の人生の中で、自分の体力・知恵・技能などの能力が爆発的に伸びた時期がいつだったかを考えてみたところ、それは10代後半の時代だったとはっきりとした自覚があります。よくもあれだけ辛いことを平気で努力し続けたものだと感じます。皆さんの年代は、一旦目標を持って、よしやってやろうと強く心に誓ったならば爆発的な力が発揮される時期なのです。人生の中では何度もない時期でしょう。まさに今からの皆さんの年齢が最も人生で伸びる時期なのです。

物事には旬というものがありますし、「鉄は熱いうちに打て」という諺もあります。伸びるチャンスを見逃さないでもらいたいと強く思います。

皆さんの年代は、好きなことや、やりたいことならいくらやっても疲れは残らないのですから、「自分はこんなものだ」とか「どうせ無理」などと自分で限界を決めず、精一杯の努力をしてみたらどうでしょうか。大きな成功を収めた有名人たちは、諦めずに努力すれば必ず夢が叶うなどと無責任なことを言いますが、私は精一杯の努力をしたからといって必ず成功するなどとは言うつもりはありません。人生は思いどおり上手く行くことはそれほど多くはありません。あるいは上手くいくことのほうが珍しいとも言えるでしょう。しかし、はっきりと言えることは、精一杯努力することは、結果が成功であれ、失敗であれ、自分という存在に自信を持てるようになるということであり、心の根っこが太く丈夫になるということだと考えます。たいした努力もせず、運良く成功してきれいで立派そうな花が咲いたとしても、根っこが細くて貧弱ならば、幹そのものがいつかは倒れてしまうものです。そもそも花は咲き続けることはできません。咲いたあとはしぼんだり散っていくものです。根っこが貧弱なら、一度咲いても次には咲きはしないものです。

高校時代には、「これをやった」と自信をもって言えるものを是非とも作って欲しいと思います。別に学校内に限りません。自分が住んでいる地域での活動でも良いですし、学校とは関係のない趣味でも良いので、夢中になれるものを是非とも見つけてください。

皆さんのかけがえのない3年間で、素晴らしい友人や先生方に、そして何よりも温かいご家族に囲まれて、実りあるものになることをお祈りし、式辞といたします。